

「GAP で変わるか， 中部地域の農業」

中部農業経済学会^{*}は、本年度の研究大会として、GAP（Good Agricultural Practice: 農業生産工程管理）をテーマに、シンポジウムを開催することとしました。

<シンポジウム趣旨>

来る東京オリンピックでは、その大会運営のための食材供給は、国際 GAP の基準を満たすことが要件とされているが、わが国では GAP の求める食品安全性、農作業安全、環境保全等の基準への対応が遅れており、今のままでは、食材によっては国産ではその基準を満たせず輸入に依存しなければならない、と懸念されている。

しかし、国内消費で、直ちにこの基準が求められる訳ではなく、またそれは、HACCP 等と同様に工程の管理が求められる基準であり、直接の安全性向上をもたらすものばかりではない。こうしたこともあって、国内農業では、生産者はもちろんのこと農業団体等も、いわば「二の足を踏んでいる」という状況である。

そこで、本シンポジウムでは、日本 GAP 協会理事であり元東海農政局長でもある岩元明久氏から GAP を巡る諸情勢について基調講演をいただいた上で、GAP への自治体の取り組みで全国的にも先行している岐阜県の行政から、意欲的その取り組みをご紹介いただき、更に実際の農業現場として、全国的にもモデル事例となり得るイオングループの取り組みとして、イオン三重いなべ農場から具体例を報告していただく。

その上で、安全・安心を求める消費者団体としての立場から食品安全・安心向上推進全般の中での GAP の位置づけ、あり方等についてコープ愛知から活動を報告いただき、最後に酒井理事を座長として地域農業振興との関係から今回のテーマについて議論を深めていく。

^{*}中部農業経済学会：愛知・三重・岐阜・静岡・福井・石川・富山・長野の 8 県を範囲とする農業経済学の学術団体

報告者・報告主題（敬称略）

- ◆座長：岐阜県下呂農林事務所 農業普及課長 酒井貞明（中部農業経済学会理事）
- ◆基調講演：「GAP を巡る内外の諸情勢と日本農業の課題」
日本 GAP 協会理事（全国農業改良普及支援協会常務理事，元東海農政局長） 岩元明久
- ◆報告者 1：「岐阜県が進める GAP の取り組み」
岐阜県農政部農産物流通課 技術課長補佐 青谷英樹
- ◆報告者 2：「イオングループいなべ農場における GAP への具体的な取り組み事例」
イオンアグリ創造株式会社 三重いなべ農場 農場長 國弘明日香
- ◆報告者 3：「安全・安心を求める消費者と GAP 農業の位置づけー消費者の立場から見た GAP」
コープ愛知 副理事長 平光佐知子

<日時>2018 年 6 月 23 日（土）13 時 30 分～17 時

<会場>岐阜大学応用生物科学部 101 講義室（岐阜市柳戸 1-1）

<交通>岐阜バス（バス系統 C70/N45，JR 岐阜駅〔北口〕バスロータリー 9 番のりば）

自家用車（駐車場 A をご利用下さい。守衛在中の場合、学会参加の旨伝え、駐車場ゲートを開けてもらい、守衛不在の場合、手動でゲートを開けてください。）

<参集範囲>学会会員，中部圏の普及・農協関係者等

注) 会場の受け入れ範囲内で，中部圏外でも参加希望があれば受け付けます。申込みはお早めに。

<参加方法>参加は無料ですが，準備の都合もあり，学会会員以外は，事前に下記の事務局まで FAX で申し込んでください。

<申込み先>岐阜大学応用生物科学部内

中部農業経済学会事務局（担当：荒幡）

TEL：058-293-2904（直通）

FAX：058-293-2904

